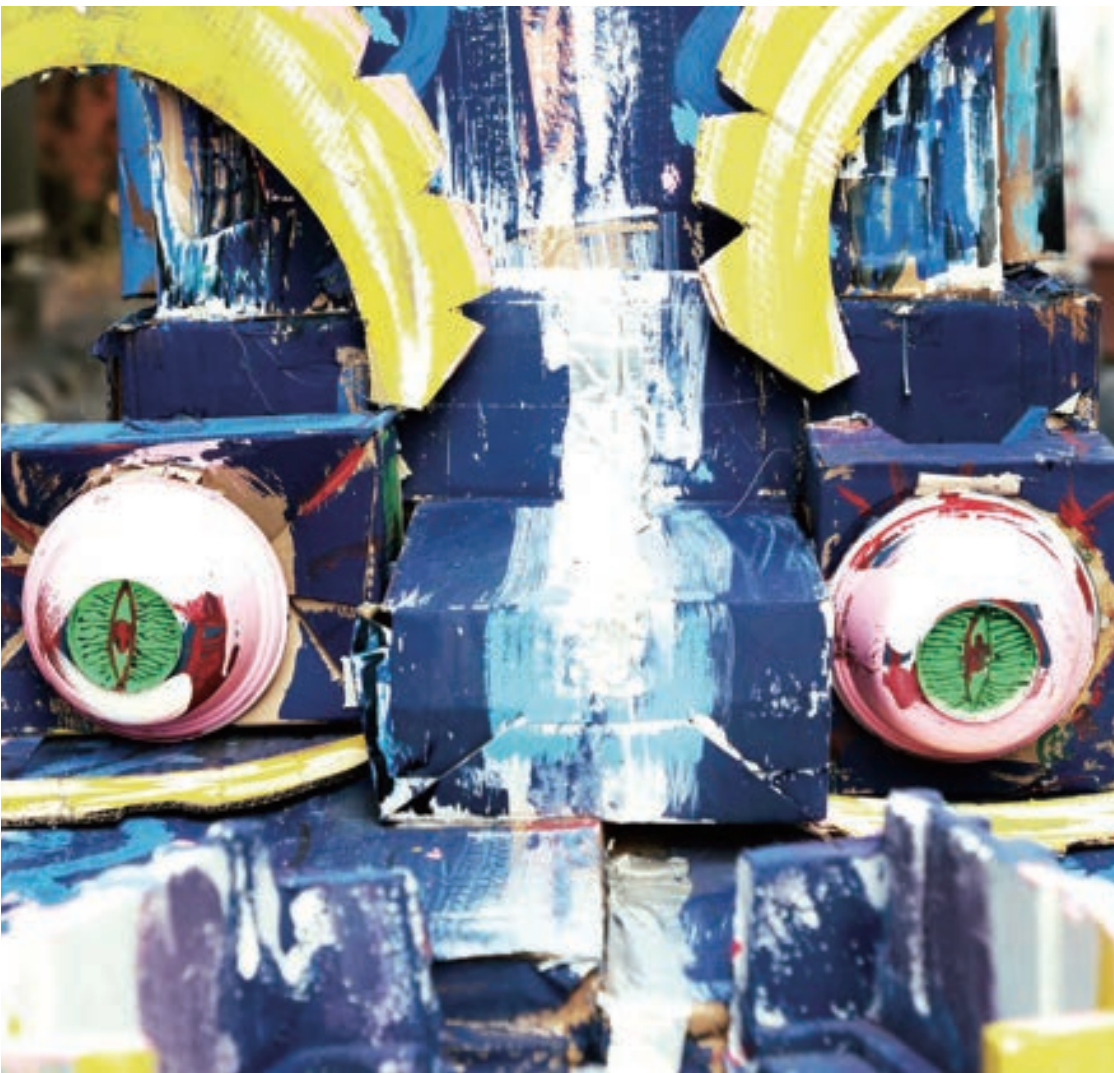


Art Laboratory Hashimoto

Annual Report 2024

2024.04-2025.03



アートラボはしもと 2024 年度 年次報告書



アートラボはしもと

〒252-0207

相模原市中央区矢部新町3-15 市立青少年学習センター内

TEL.042-703-4654 FAX.042-703-4659

E-mail artlabo@city.sagamihara.kanagawa.jp

URL <https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>

令和7年8月発行

編集・発行 アートラボはしもと(相模原市市民局文化振興課)

画像提供 仁禮洋志

イラスト提供 本多ちかこ

印刷・デザイン 株式会社 日相印刷

アートラボはしもとは

アートラボはしもと（以下、アートラボ）は周辺にある美術系大学などと連携し、そこで学ぶ美大生や卒業生、子どもたちや地域の方々、商店街や企業、学校、研究機関、市民グループなどと協力しながら、多彩なアート事業を展開する“アートの活動拠点”です。現在は令和9年度にリニューアルオープンする後継施設整備のため、施設を一時閉館し、相模原市立青少年学習センター内の仮事務所において、準備並びにアウトリーチを中心とした事業に取り組んでいます。

活動方針

- 1 アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開します。
- 2 様々な主体との協働や異分野との連携を進め、アートを通じたコミュニティの形成やまちの賑わいづくりを推進します。
- 3 地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成します。



アートラボはしもとの13年目

橋本駅の南側、大型商業施設アリオ橋本に隣接するマンション販売センターを再利用し、アートラボとしての活動を始めたのは平成24年4月のことでした。この運営にあたっては近隣にある女子美術大学、桜美林大学、多摩美術大学、東京造形大学の4美術系大学と基本協定を結び、アートラボの企画、各大学の企画、さらには大学間の垣根を越えた学生の企画など様々な形態のプログラムを実施し、子どもたちや地域の方々など、人・組織・企業を巻き込む活動を行ってきました。

さて、もともとアートラボは期間限定の暫定施設でしたが、「相模原市美術館基本構想」において「市民との連携や交流による新たなアートの学びと創造の場」と位置づけ、「第3次さがみはら文化振興プラン」により再整備を進めることになりました。そのため現在は基本協定を結んでいる株式会社イトーヨーカ堂（以下、I社）と後継施設の再整備に向けた準備を進めています。その進捗状況などについては次の項をご覧ください。

なお、アートラボは現在、相模原市立青少年学習センター内に仮事務所を設け、アウトリーチを中心とした活動を行っています。令和6年度は、アーティストたちが毎年スタジオ（制作場）を公開する「SUPER OPEN STUDIO」、児童クラブや福祉施設でのワークショップ、アリオ橋本内での検証実験工作プログラム、さらには旧宿町町にある県指定重要文化財の建物を会場としたアートフェスなどを開催しました。

アートラボはしもとの再整備について

アートラボは、令和9年度のリニューアルオープンに向けて、関係各所との協議や調整を重ねてきました。後継施設の設計方針および事業計画について、これまで整備検討委員会で議論された内容をもとに、後継施設の諸条件に即した整理を行っています。

また、内装設計者であるトミト・ANT・川見設計JV（以下、トミトSJ JV）との協議を通じて、具体的な方向性の検討も進めており、設計者が提案する方針案と後継施設で実施される事業計画との整合性が図られるよう、有識者への意見聴取なども実施しました。

そのほかにも、今後の地域との連携や運営体制の構築を見据え、I社及びアリオ橋本との協議を開始し、「(仮称)Art District 協議会(以下、ADK)」の立ち上げに向けた準備も進めています。

産官学民が関わる仕組みづくりのため、これまでアートラボの事業に関わってきた複数の美術系大学に対してもADKの構想に関するヒアリングを実施し、持続的な連携に向けた対話を深めています。

こうした再整備に向けた取組の一環として、後継施設が配置される予定のアリオ橋本において、再整備の機運醸成とADK運営の検証実験を兼ねた工作プログラム、「アートラボはしもと セッセとジュンビチュウ!『粘土でこねこね こだわりフルーツ串』」を実施しました。今後も、様々な検証実験を重ねながら事業運営のノウハウを蓄積し、後継施設のリニューアルに向けた準備を行ってまいります。

アートラボはしもと再整備に向けた取組

2008年 2月	相模原市美術館検討委員会設置
2009年 3月	「相模原市の美術館にかかる提言書」
2011年 5月	相模原市美術館基本構想検討委員会設置
2012年 3月	4大学とアートラボはしもとに関する基本協定締結
2012年 4月	アートラボはしもと開館
2014年 2月	相模原市美術館基本構想(答申)
2015年 3月	「アートラボはしもと」四大学共同提言書
2016年 5月	相模原市美術館基本構想策定
2018年 5月	相模原市橋本地区における美術施設の整備に関する検討委員会設置
2019年 1月	アートラボはしもと事業評価
2019年 10月	アートラボはしもと後継施設の整備に係る建議書
2021年 8月	施設閉館/事務所移転
2022年 3月	再整備事業に係る民間事業者公募
2022年 6月	再整備事業に係る優先交渉権者の選定
2022年 8月	再整備事業内装設計に係る公募型プロポーザルの実施
2022年 12月	内装設計者最優秀者をトミト・ANT・川見設計共同体に選定
2024年 1月	株式会社イトーヨーカ堂と基本協定締結

事業スケジュール(予定)

2025年度	アートラボはしもと既存施設解体工事、I社と基本契約締結
2026年度	後継施設内装設計
2027年度	後継施設オープン

セッセとジュンビチュウ!

本事業は、アートラボの再整備に向けてI社が提案したADK組成に関する検証実験を、アリオ橋本で開催したものです。商業施設との連携をテーマに、館内のフルーツ売場を参考にした粘土を使う工作プログラム「粘土でこねこね こだわりフルーツ串」を企画・実施。さらにリニューアルに向け、再整備事業の進捗状況の紹介を行うなど、その周知を図りました。

工作プログラムには多くの参加者が集まり、後継施設への期待の声も多数寄せられました。こうした成果の一方で、事業実施に際しては、役割分担の曖昧さや商業施設内での事業実施に関する課題が浮き彫りになるなど、民間事業者や行政等の多様な組織・個人がアート活動による協働を進めていくうえで、連携体制や目的の共有が重要であることを認識する機会となりました。このようにリニューアルオープンまでの間にも、様々な事業を通じて、協力体制を強化していく必要があることを相互に確認しています。

日時 | 令和6年8月19日(月)13:00~18:00
会場 | アリオ橋本 グランドガーデン
主催 | 相模原市(アートラボはしもと)
協力 | アリオ橋本





SUPER OPEN STUDIO 2024

2013年に始まった「SUPER OPEN STUDIO (以下、S.O.S.)」は、相模原市及びその周辺地域に点在するアーティストのスタジオを一斉に公開し、アーティスト同士の連携や地域との関係性を築きながら活動する継続的な取組です。本事業の運営は、各スタジオを拠点に活動するアーティストによって構成される「Super Open Studio NETWORK (S.O.S. NET)」との連携によって行われ、毎年秋には多彩なプログラムが展開されます。

2024年は、14軒のスタジオ・71名のアーティストが参加。各スタジオでは、作品展示やパフォーマンス、物販など、それぞれの個性を活かした企画が行われ、多様な来場者との交流の場が生まれました。

また、新たな取組として、アーティスト一人一人のスタジオの在り方や制作への姿勢を紹介する小冊子『スタジオと「居る」』を発行しました。今回は「居る」というキーワードを掲げ、制作と生活が交差する場としてアーティストとスタジオの関係性に着目しています。これはアーティストやスタジオの運営に関わる人々の視点を通じて、日常に根ざした制作のリアリティを垣間見ることで、アートをより身近に感じるきっかけをつくることを目指したものです。

このように制作の現場を地域に開く取組は、時間が経つごとに広がり、と深まりを増しており、今後もさらなる展開を図っていきます。

会期 | 令和6年11月9日(土)・10日(日)・11日(月)・16日(土)・17日(日)
主催 | SUPER OPEN STUDIO 実行委員会(Super Open Studio NETWORK、相模原市)
共催 | 相模原市(アートラボはしもと)
協賛 | 株式会社アライ
協力 | アリオ橋本

参加スタジオ一覧

- 01 PARK8**
田坂和実
ゲスト：寺本明志、宮川遥弥
- 02 LUCKY HAPPY STUDIO**
片山真妃、北村拓之、小林丈人、高山陽介、千葉正也、堀ななみ、宮本穂登、渡邊遥
- 03 studio kalcova**
久野真明、永山健吾、和田咲良、渡邊紗紀、Kim Seonghee
- 04 STACK ROOM**
今井裕基、片桐旭日、佐藤イチダイ、八田亜美
- 05 アトリエボイス**
内山聡、佐藤純也、中西晴世、ナカバヤシアリス、橋本陽、洲田真里名、堀江和真、丸山零、有美子、渡利達彦
- 06 RED IRON STUDIO**
池島晴子、鈴木飛馬、長尾郁明、畠中瑠夏、松本藍子、水上愛美
- 07 モゲスタ Moge Studio**
川島弘子、高嶋英男、高橋忠夫、西島蓮
- 08 クンストハウス**
荒井伸佳、内田望、内海仁、佐々木大、中畑良孝、中村萌、三木サチコ、吉雄介
- 09 ESA**
尾山久之助
ゲスト：山本武
ゲストスタジオ：ひつじ工房(内山翔二郎、宮崎虹季)
- 10 STUDIO 牛小屋**
大槻英世、鈴木俊輔、光藤雄介、向井哲
- 11 TANA Studio**
井出賢嗣、川名紀子、渡辺豊
- 12 Penguin's House Green**
江口智之、清水大矢、都路拓未、塙龍太、平田守、ENDOE
- 13 STUDIO カタクリコ**
泉啓司、翁素曼、加藤泉、坪倉信太郎、森本一朗
- 14 Bartleby**
長廻亮



スタジオ公開



スタジオと「居る」^{スペース} | Vol.1 スタジオと「居る」

S.O.S. に紐づく物事を言葉にしたり、聞き取ったりした内容を並べることで、スタジオで制作活動が続けるアーティスト一人一人の人物像に迫る企画です。今回はテーマである「居る」について、生活や制作スタイルの異なる S.O.S.NET 所属のアーティスト 4 名に、シェアスタジオで何が起きているのか、どんな時間を過ごしているかなどをインタビューしました。また、外部ゲストとして神戸市で拠点づくりを実践する団体にもアーティストを取り巻く環境をどのように整備しているかなどを伺い、アーティストにとってスタジオがどんな存在なのか紐解きながら、それぞれのエピソードを1冊にまとめました。

企画・編集：今井しほか



スタジオビジット・バスツアー

各地域に点在するスタジオ間をつなぐバスを走らせ、同乗するアーティストたちの会話を聞きながらまわるツアーを開催しました。発着場所であるアリオ橋本から走り出したバスは、ガイド役のアーティストがそれぞれの制作やスタジオの周辺情報などを話す中、3～4軒

のスタジオを訪れます。1日2便運行したバスツアーには、未就学児から高齢者まで幅広い年齢層の方々に参加され、中には関東近郊以外の遠方から来られる方もいました。

日時 | 令和6年11月10日(日)・11日(月)・16日(土)・17日(日)
11:00～14:00、15:00～18:00(1日2便)



スタジオスタンプラリー

相模原市内やその近隣に点在するスタジオに実際に足を運ぶきっかけづくりとして、S.O.S. 参加スタジオ14軒にスタンプを設置し、スタンプラリーを開催。スタンプ台紙はMAPBOOKの各スタジオ情報欄に配置し、訪れたスタジオごとにスタンプが押せる仕様になりました。それぞれのオリジナル図柄を楽しむなど、実際にスタンプラリーに参加した方やアーティスト同士のコミュニケーションが生まれる1つのきっかけとなりました。

協賛：株式会社アライ



参加者の声(一部抜粋)

相模原市周辺で何かをつくりだしている場所や人がたくさんいることが知れて、さらにスタジオへお邪魔できて素敵な時間でした。
バスに乗れば連れていってもらえるという気軽さもありが良かったです。

スタジオツアーがあると、生活をしながらつくっている人たちがいる(暮らしと制作はとても近い)ということも伝わりますし、つくることや見ることなど、表現について話すことが身近になる気がしました。

小学生の娘と川崎市から参加させたいいただきました。初めて見る世界ばかりで、非常に興味深かったです。帰ってから各アーティストさんたちのサイトをネットでじっくり探してみたいと思います。

中山間地域文化芸術事業

相模原市の西部に位置する中山間地域(津久井・相模湖・藤野)は、豊かな自然や水源に恵まれた魅力的な地域です。一方で人口減少や高齢化が進んでおり、市では移住・定住の促進や地域振興など、新しい日常に対応した暮らし方や働き方の検討を重ねています。本事業は、文化芸術の側面から中山間地域の魅力発信などを試みたもので、相模原市民ギャラリーとアートラボが3年間にわたって実施しました。



令和4(2022)年度

Into the Forest —ものづくりの森へ

会期 | 令和4年11月17日(木)～27日(日)10:00～18:00
会場 | 神奈川県立相模湖交流センター・アートギャラリー
主催 | 相模原市(相模原市民ギャラリー)
協力 | 神奈川県立相模湖交流センター、森ラボ
一般社団法人さがみ湖 森・モノづくり研究所/MORIMO
相模湖観光協会
内容 | 市収蔵美術品の中から「自然」を感じられる作品を選出し、併せて土や木を素材に使う地元作家を紹介。また、女子美術大学の学生による木製玩具や縄文土器も展示し、さらに津久井産材による箸づくりワークショップを実施。
展示作品 | 岩橋英遠「記録Ⅱ・Ⅲ」 上田薫「流れⅡ」
岩中徳次郎「森の唄」ほか
招待作家 | 伊藤峯雄(木彫家)
熊谷幸二(土器作家)
入場者数 | 334人



令和5(2023)年度

アートのローカリズム ここにもアートがあった!?

会期 | 令和5年11月18日(土)～26日(日)10:00～18:00
会場 | 相模原市民ギャラリー
主催 | 相模原市(相模原市民ギャラリー)
内容 | アートの発掘をテーマに中山間地域の公民館や学校などにある美術作品を集め、市収蔵美術品のうちの当該地域にゆかりのある作家の作品と一緒に紹介。
展示作品 | 浅野康則「お月さまの夜」
石井了「明けゆく相模湖」
伊勢正義「静物」
上原月郷「鷹」
雫石義高「みのりの秋」
志村貞雄「春雪の中津渓谷」
中山政孝「奥津久井深秋」
野口創平「春琴の相模湖」
山田尚政「無題」
ほか
入場者数 | 295人



令和6年(2024)年度

突然ドラゴン出現!

小原宿本陣 アートフェス



中山間地域文化事業の3年目はアートラボが企画を担当しました。令和4年度・5年度が展覧会だったことを踏まえ、今回はより地域に深くかかわる「アートフェス」とし、文化財活用観点から会場を江戸情緒漂う小原宿本陣(県指定重要文化財)にしました。また、テーマを相模湖の伝承をもととする「ドラゴン(龍)」とし、ドラゴンチェアーなど作品制作のワークショップや展示、紙芝居や落語などのパフォーマンス、さらには野外ライブを開催。平面、立体、話芸、身体表現、そして音楽と、様々な表現を用いながら歴史的環境に恵まれた地域の魅力を発信しました。なお、本事業に合わせ、隣接する小原の郷では、小原宿活性化推進会議が主催する「小原の里の首まつり」が同時開催されています。

開催当日は朝から雨が降るあいにくの天候でしたが、それでも多くの方にご来場いただき、演目の数々や作品鑑賞、ライブなどをお楽しみいただきました。

実施日 | 令和7年3月16日(日)10:00～15:00
会場 | 小原宿本陣、小原の郷
主催 | 相模原市(アートラボはしもと)
協力 | 小原宿活性化推進会議、アリオ橋本、公益財団法人相模原市民文化財団、女子美術大学顔料創造ファクトリー

ドラゴンチェアー

「小原宿本陣アートフェス」のシンボルの役割を担ったドラゴンチェアーは、現代美術家の開発好明さんによるプログラムです。これは参加者一人一人が段ボールなどの素材を組み合わせてドラゴンの体となるチェアーをつくり、開発さん自身が制作したドラゴンの頭に連結させて大きなドラゴンを出現させるという参加型のワークショップです。平成20年から都内小学校を含む全国各地で実施・制作され、これまでのものをつなげると2000mを超える長さと言われています。

今回のアートフェスではその開催に先立ち、市内2ヶ所でワークショップを実施。開催当日、制作者自身の体を

受け止められるほどの構造をもつ16個のチェアーは、実際につくった人が座って「ドラゴン演芸場」を楽しむものとして活用されました。

残念ながら雨天のために宿場町を並んで歩く「ドラゴン行進」は中止となりましたが、ドラゴンがテーマのアートフェスの中で、このドラゴンチェアーはそれぞれの地域と人びと、そして歴史をつなぐ核となるプログラムとなりました。

会場・日時 | 小原集会所 令和7年1月19日(日)10:00~15:00
[青少年学習センター] 令和7年3月2日(日)10:00~15:00
協力 | 小原活性化推進会議



現代美術家・開発好明

3月16日に相模原の小原宿本陣にて開催された「突然ドラゴン出現！小原宿本陣アートフェス」は、朝から一面に雪が降り積もる、天候としては最悪のスタートでした。しかし、雨の神であるドラゴンチェアーの力か、雪は雨に変わり、小雨となり、イベント時には雪は溶け、本陣内は大盛況のうちに幕を閉じました。

このアートフェスに先んじて段階的に2回のワークショップを行い、異なる世代によって作られた様々な形の作品が完成しました。

私は、スタッフによって前日に並べられたドラゴンを見ようと、小原宿本陣の門をくぐりました。そしてそこから見える昔の佇まいのままの本陣の美しさにテンションが上がりました。土間から足を踏み入れた瞬間、そこはまるで別世界。参加者の方々の笑顔と歓声が溢れ、活気に満ちた空間が広がっていました。

横が開かれた大空間に、輪を描くように配置されたドラゴンチェアーは、参加者たちの創造性と遊び心に満ちたものでした。段ボールや廃材などを組み合わせ、思い思いに装飾を施した椅子たちが、まるで龍の鱗のように連なり、巨大なドラゴンの姿を形成する様子は、まさに圧巻でした。子どもたちはもちろん、大人たちも童心に返り、夢中で椅子を組み立て、飾り付け、互いに協力しながら巨大なドラゴンを完成させた姿は、感動的でした。

当日、完成したドラゴンチェアーに腰を下ろす作者たち。普段とは違う視点、高さ、そして何より、自分たちが作り上げたという達成感が、なんとも言えない心地良さをもたらしてくれたと思います。私自身、制作時間を気にして、完成したチェアーにゆっくり座る時間を今まで作れていなかったのが、1時間しっかり座って自分のドラゴンチェアーの座り心地を感じつつ演目に笑った時間は、とても重要な経験になりました。

現在、私たちは仕事を分業化し、効率を求めて生活していますが、こうやって自分の作り出した物を使って生活することはそうありません。そんな時間を今回共有できたことを嬉しく思います。



PR動画の制作

本事業PRのためドラゴンチェアーを主役とするコマ撮りアニメを制作しました。まず、アトラボがつくったドラゴンチェアーを現地に運び、1秒あたり8枚の写真を撮影。これをつなげると動いて見えるアニメとなります。相模湖から現れたドラゴンが小原の宿場町を通して本陣にやってくるという内容で、13秒のショート版と32秒のロング版があります。市の公式YouTubeで1,000回、アトラボのFacebookで1000回、Instagramで3500回ほど再生されています。

制作 | 仁達洋志
編曲・楽曲提供 | DRAGON CHOP
協力 | 伊勢屋造
相模湖公園(津久井治水センター)
勝瀬観光株式会社



文化財建造物におけるアートフェスの可能性

相模原市教育委員会 文化財課 学芸員 齊藤真一

令和7年(2025)3月16日に開催された「突然ドラゴン出現！小原宿本陣アートフェス」の会場となった小原宿本陣は、約200年前(18世紀末～19世紀初頭、江戸時代後期)に建設されたとする建造物です。本陣とは大名や幕府の高級役人、公家などが公用交通の際に休泊する施設やその任を担う職を指し、宿場町の中核として置かれていました。神奈川県には26軒あったことが知られていますが、現在残るのは小原宿本陣が唯一であり、本陣建物とその歴史を今に伝える貴重な文化財として、平成2年(1990)に県指定重要文化財に指定されました。

この建造物が所在する小原宿は甲州街道に置かれた宿場町のひとつで、慶長9年(1604)の史料にはその存在を伺わせる記載があり、宿場町としての歴史は400年を超え、現在もその風情を伝える町並みが残ります。宿場町の東の入口には、市民の交流や観光拠点として小原の自然や歴史文化の情報を発信する小原の郷があり、これらを小原宿の魅力の核として地域の方々为主体となり、景観保全やイベント等の地域活性化の取組が行われています。

小原宿本陣は江戸時代に本陣職を担った清水家からの寄贈を受け、現在、文化財公開施設として多くの方々にご来場いただいています。江戸時代以来の建物は、時代の流れに伴う生活様式の変化により改築がみられますが、門や式台(玄関)、上段の間や控えの間、大名専用厠など来賓をもてなす本陣建造特有の造りが残ります。また、徳川家から下賜されたとするドウダンツツジなどを配した庭園や本陣の基礎となった養蚕建築の特徴、江戸時代以来の生活感を感じる古民家の風情は、来場者に歴史文化を感じていただいていることと思います。

今回のアートフェスは、単に小原宿本陣を会場として使用するのではなく、地域の伝説・歴史背景を生かし、発展させたコンセプトにより実施されました。このような取組は、日ごろ歴史文化に強い関心を持たない方々に小原宿や本陣を知り、足を運んでいただくまたとない機会となりました。また、多様なイベント内容も一貫したコンセプトがあることにより、「堅苦しく難しい」と感じがちな歴史文化を学びきっかけとして、入りやすいものになったことと思います。日ごろイベント集客になかなか力を発揮できない文化財課ですが、一度興味を持っていただければこちらのもの。歴史文化の奥深さに引き込むのはこちらが得意とするところです。私自身、アトラボはものと担当者から会場使用の相談を受けたとき、当初は日ごろの

文化財イベントとはかけ離れた異質な内容に驚きましたが、PR動画の撮影に立ち会い、実際に宿場町を動き回る？ドラゴンの頭を見ると、どこか街並みの風情に溶け込み、おもしろおかしく伝説を歴史の中に展開させ妄想を楽しみました。

市内には、国指定史跡や県重要文化財の公開施設が他にもあります。歴史文化とアートの融合により、より多くの方々に知っていただく機会となり、また、会場とする文化財の歴史文化をコンセプトの中核に入れることにより、その本質を学んでいたで非常にいい機会になるものと思います。

現在、相模原市では、市域に息づき残される多様な文化財を俯瞰し、総合的・一体的に保存・活用することにより、地域の特徴を生かした地域振興に資するとともに、文化財の継承をつなげられることを目的とした「相模原市文化財保存活用計画」の策定作業を進めています。かけがえのない文化財を守り、生かし、次世代へつなぐことは過去・現在・未来の豊かな市民文化の創造をつないでいくことにもなります。そのための大きな一歩は、多くの市民に歴史文化を知り、魅力を感じてもらうこととなります。

今後も相模原市の歴史文化を多様な角度から発信する切り口のひとつとして、アートとの融合にも積極的に取り組んでいきたいと考えます。



小原龍絵画

小原龍絵画は、女子美術大学の卒業生を中心とする「ナチュラルナノ研究グループ」によってワークショップを実施し、その成果作品を展示したものです。

小原地域の石を粉碎してつくった天然の岩絵の具を使って、小原地域の方たちが龍の絵に模様を描き入れました。龍画の原画は、メンバーで市内在住の日本画家、みやじまゆういちさんが描いたものです。ワークショップに参加した方々は、地域の石から多彩な色の絵の具ができることに驚きの声を上げていました。



また、完成した作品はドラゴン演芸場に展示し、作品解説用のパネルも併せて設置しました。来場者からは、「作品を通して小原地域を知ることができた」と喜ぶ声が聞かれました。

ワークショップ「小原の石からつくった
絵の具で龍を描こう！」
日時 | 令和7年1月19日(日)10:00～15:00
会場 | 小原集会所
協力 | 小原宿活性化推進会議

作品展示
日時 | 令和7年3月16日(日)
10:00～15:00
会場 | 小原宿本陣

2024年6月に初めて小原宿本陣を訪れた時、青々とした芝生の庭、歴史的建物の存在感、石垣と庭に使われている自然石が印象に残りました。この場所にどんな作品が似合うのか、考え始めていたと思います。

10月にアートラボはしもとり正式な依頼を受けて、小原の石の天然顔料制作と龍画ワークショップ開催が決定しました。そこで12月にナチュラルナノ研究グループ全員で底沢・美女谷・七ツ淵の石拾いに再訪しました。一見灰色に見える石も良く見れば色味があるので、色を意識して採取しました。また現地で特に「光沢のある黒色の石」が印象的だったので「黒龍」を描く事にしました。この石は本陣の庭にも使われていたので、相模原市立博物館と平塚市立博物館のHPなどを参照させて頂き、石と地質について調べてみました。すると、小原は「地表に露出している1億年～2000万年前に形成された神奈川県最古の地層」を有する小仏山地に位置していて、その特徴的な石は県最古の「千枚岩」だと分かりました。

また相模川を挟んで対岸にある丹沢山地は800～500万年前に本州に衝突した火山島であり、それは構造が異なる新旧の地質の境目が相模川であるという事を意味していて、地学的に見ても小原はとても面白い場所に在るのだと思いました。

今回、女子美術大学名誉教授・橋本弘安先生よりアドバイスを受けて、採取した石は女子美術大学顔料創造ファクトリーと「NPO法人富士山からはじまる天然顔料と粉碎の研究会」協力のもと顔料化しました。8個の石から各3段階(荒目・中目・細目)の粒子を作成し、24色を得ました。

そして2025年1月にワークショップ「小原の石からつくった絵の具で龍を描こう！」を開催し、相模原市在住の画家でチームメンバー・みやじまゆういちが描いた龍の原画に、地域の皆様と一緒に鱗模様を描いて60×182cmの「小原龍絵画」を完成させました。当日はお土産として版画龍小旗もプレゼントしました。プロの作家が描いた絵に筆を入れて作品を完成させる体験を通し、本格的な絵画制作に「自分自身が参加した」と実感して頂けたのではないのでしょうか。また、小原の石が唯一無二の「小原の色」になる事も知って頂けたと思います。

私達が採取した石が「天然岩絵具」になり、皆様の協力で「小原龍絵画」となり、3月16日に小原宿本陣内に展示された

事は、大変貴重な経験となりました。龍はその空間に当たり前のように馴染んでいました。長い間ずっと小原に在った石が絵画に変化しても、その色の調和は失われない事、そして絵画は新たな「魅力」を示すものなのだという事を確認する機会となりました。皆様にとっても「小原龍絵画」を「地域の魅力や新しい価値観の発見」など、何かを見出すきっかけにして頂けたら幸いです。この度は様々なご縁を頂き、ありがとうございます。とても楽しい活動となりました。

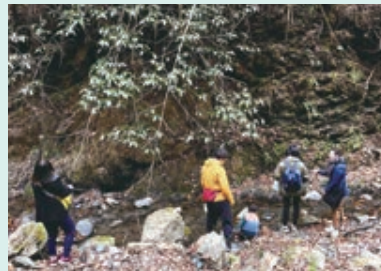


ナチュラルナノ研究グループ
黒石千恵子

ナチュラルナノ研究グループとは…

「NPO法人富士山からはじまる天然顔料と粉碎の研究会」に参加する天然顔料作品研究のグループです。女子美術大学顔料創造ファクトリーの協力を得ながら、石から絵の具をつくるワークショップ活動を行っています。

メンバー：黒石千恵子、青木明日香、梶浦奈緒子、
藤野麻由羅、みやじまゆういち



ドラゴン演芸場

小原宿本陣を演芸場の舞台に見立て、紙芝居・落語・絵本の読み聞かせとパントマイムを実演しました。舞台となる「上段の間」に落語の高座を設置し、その後ろの鴨居には小原龍絵画を掲げました。また、高座から客席となる「中の間」「控の間」までをドラゴンチェアがぐるりと取り囲みます。チェアの制作者である子どもたちが、そして輪の中に敷き詰められた座布団に大人たちが座ると、演目が始まります。肌寒い小雨が降る中、本陣の中には100人近くの方が集まり、時には笑い、時には涙ぐみ、楽しいひと時を過ごしました。

日時 | 令和7年3月16日(日)13:30～14:30
会場 | 小原宿本陣(上段の間、中の間、控の間)



紙芝居「照手姫とへび」

本多ちかこ&ゆいさんによる創作紙芝居です。相模湖には人に化ける白へびの伝承があり、また、小原地域の美女谷は伝説の美女・照手姫が生まれた地と伝えられています。この紙芝居は白へびが千年の時を経てドラゴンになり、幼い頃に別れた照手姫に逢いにやってきたという物語でした。なぜドラゴンなのか、なぜ小原なのか、ということをお多さんが考えてつくったものです。口調によってへびから姫まで何役をもこなす話術に会場の皆さんもすっかり夢中。



落語「桃太郎」

春風亭一之輔門下の二ツ目、春風亭与いちさんによる古典落語の名作「桃太郎」です。マクラに龍にまつわる話をする、といよいよ演目に入ります。なかなか寝ない子どもに父親が昔話をして寝かしつけようとしてますが、子どもの方が一枚上手。なぜ桃から生まれるのか。鬼ヶ島とは何か。猿・犬・雉は何を意味するのか。理屈っぽく説明するうちに気が付けば先に寝ていたのは父親の方だったというオチに大人も子どもも大爆笑。



絵本とパントマイムのパフォーマンス

絵本のおはなしお姉さん・瀬戸口あゆみさんと、パントマイムのお兄さん・金子しんべいさんによるユニット「おむすびひろば」による絵本とパントマイムのパフォーマンスです。絵本の読み聞かせとウクレレ演奏で会場が暖まると、最後に登場したのがロシア民話「大きなかぶ」。大きなかぶを引き抜くために、お兄さんが一人で演じるおじいさんやおばあさん、孫娘に犬、猫、ねずみ、小鳥が引っ張る。

それでも足らず会場から、子どもたちや大人までもが引っ張り出されてやっと抜けるという愉快な話です。子どもたちの熱演に皆さん大拍手。演目の中ではワークショップでつくったバードコールを鳴らして応援する場面もありました。



バードコールづくりワークショップ

一般社団法人さがみ湖 森・モノづくり研究所 / MORIMO による津久井産材を使ったワークショップです。同団体は地域の森や街路樹、公園などで伐採された広葉樹を用いて学校の天板を製作するなど、木材を活用した様々な事業を行っています。今回は枯れてしまったナラの木を利用してバードコールづくりを実施しました。短く切った小枝に穴を空けて金属を差し込み、回すと小鳥のさえずりに似た音がでます。参加者は自分でつくったバードコールを手に、パントマイムの演目を盛り上げました。

日時 | 令和7年3月16日(日)
11:00～13:00、14:30～15:00
会場 | 小原宿本陣(広間)



ドラゴン LIVE!

日時 | 令和7年3月16日(日) 10:00~12:30、14:30~15:00 会場 | 小原の郷
出演 | DRAGON CHOP、RHIME手裏剣、Cenon、MARIIBU、KEN、KOHGA、SNUFFKINFACE

小原宿本陣に隣接する小原の郷では、レゲエやラップを中心とした「ドラゴン LIVE!」を実施しました。出演は市内在住のレゲエミュージシャンの DRAGON CHOP さんやラッパーの RHIME 手裏剣さん、さらには小学生のドラマーやミュージシャンまで登場する多彩な顔ぶれで、訪れた観客を楽しませていました。また、当アートフェスのPR動画にも使用させていただいた楽曲、



突然、相模原の市役所からメールがきました。小原でドラゴンにまつわるイベントをやるから DRAGON CHOP (ドラゴン・チョップ) に LIVE 出演してほしいとのオファーでした。それが今回アートラボはしもとの出会いでした。私は DRAGON CHOP という名前が相模原を拠点にレゲエミュージシャンとして活動しており、今回たまたま「ドラゴン」という名前がご縁で出演依頼を受けたのでした。打ち合わせをするうちに、「町おこし」のキーワードが出てきて、イベントを盛り上げるなら私の他にも出演者を呼んで音楽フェスのようにしたいなという気持ちが湧いたので、今回のイベントに相応しい仲間たちに声をかけました。集まってくれたのは Cenon (小学1年生の歌い手)、KOHGA (小学5年生のドラマー)、MARIIBU (高校3年生のラッパー)。彼らは相模原で活動する若きアーティストで、LIVE ショーを通して大人たちが相模原のこれからの音楽シーンに期待を持ってくれるだろうと願いを込めてのブックングでした。イベントの2ヶ月ほど前にドラゴンチェアをつくるワークショップがありました。子どもたちが段ボールで椅子(ドラゴンチェア)を作り、それを繋げてドラゴンの長い体にしてイベント当日に会場を大行進するという趣旨の企画で、LIVE 出演する子どもたちと一緒に私の子どもも参加させてもらいました。最初は面倒くさがっていたものの、いざ作り始めると楽しさい集中力でドラゴンチェアに向き合っていた

「ミマモリタイ」も演奏され、会場は寒さも吹き飛ばすほど大いに盛り上がりました。

なお、小原宿活性化推進会議によって同時開催された「小原の里の昔まつり」では、手づくり雑貨の店やキッチンカーが並び、きな粉づくりなどの昔の暮らし体験コーナーも開かれました。

ので、子どもたちに潜在する力を感じることができて親として感慨深い気持ちでした。

さて、ドラゴンチェアの準備もバッチリ、LIVE の練習もバッチリと行い、あとは当日のドラゴン祭りを楽しむだけという状況で、まさかの悪天候という予報が出てきました。てるてる坊主を作り龍神様にお天気の祈りを捧げましたが、当日の朝もあいにくの雨でした。しかし、出演者みんなの熱いバイブレーションでなんと決行。雨もだんだんと弱まり無事に LIVE ができました。小原宿本陣の演芸場で紙芝居、落語、バンドタイムが披露され、お客さんは大盛り上がり。子どもたちが落語で爆笑していたのが印象的でした。雨の中でも楽しもうという気持ちさえあれば充実した1日を過ごせるもんだと、改めて実感できました。この日、私にとっていちばんの収穫は、小原の地域住民の皆さん、キッチンカーのおじさん、遠方からわざわざ遊びにきてくれたお客さんとの交流です。ほとんどが初めての人たちでしたが、あっという間に仲良くなり、これから応援するよと言ってくれたのが忘れられません。人との繋がりがこそ、フェスの醍醐味ですね。



レゲエミュージシャン
DRAGON CHOP

小原の郷の昔まつり

あれは確か、令和6年8月頃だったでしょうか。アートラボはしもとから、小原宿活性化推進会議の私たちのところへ、突然にも、連携事業をとの打診がありました。それを受けて本会議では、二つ返事で承諾させていただきました。先ずは何よりも、この連携事業を、相模原市緑区小原に白羽の矢を立ててくださったことに感謝いたします。そして、本事業が令和7年3月16日に開催されたことにつき、相模原市をはじめ、アートラボはしもと並びに関係者の皆様方に対しまして厚くお礼申し上げます。

さて、当日までの7ヶ月余りの間、アートラボとその関係者の方々は、本会議との打ち合わせをはじめ、度重なる現地調査(本陣や小原の郷は勿論のこと、底沢地域の照手燈伝説の地における採石など)を実施し、地区内を隈なく精査されていました。その他にも、ドラゴンチェアワークショップの開催、前日準備等々を、精力的に取り組みされており、頭の下がる思いでいっぱいでした。3月16日の連携事業当日は、早朝7時からの準備。限りなく悪天候。春の大雪が私たちをあざ笑うかのように、激しい勢いで、これでもか、これでもかと降り注いできました。今日に限って何というこた。一向に止みそうもない。関係者一同全てが不安を隠すことはできませんでしたが、時間が進むにつれて、雪が雨に変わり、徐々に弱ってきたのは、不幸中の幸いでした。このような中、小原宿本陣内(ドラゴン演芸場)は充実した

出し物が盛り沢山で、会場は満席の中、とても活況を呈していました。他方、小原の郷の「ドラゴン LIVE!」では、大迫力の歌唱が披露され、大勢の来場者の方々と一緒に盛り上がりっていました。また、本会議が用意したマルシェや津久井在来大豆を使用したきな粉づくりも好評でした。当日は、悪天候の中ではありましたが、来場者は多く内容も充実し、素晴らしい企画が開催された大成功の1日であったと思います。

結びに当たり、今後もこのような催しが、小原の地で開催されますよう心から祈念いたします。



小原宿活性化推進会議
会長 小林幸治

日時 | 令和7年3月16日(日)
10:00~15:00
会場 | 小原の郷
主催 | 小原宿活性化推進会議

—小原の概略—

小原は、昔は日本で一番小さな町とも言われていました。相模原市緑区の北西部に位置し、東京都と山梨県に隣接し、世帯数 164 世帯、人口 345 人(いずれも令和7年3月現在の)の小さな集落です。何よりも、豊かな自然と人情味溢れる人々が共存するところです。現在の小原は、県内で唯一現存する甲州街道小原宿本陣(県指定重要文化財)、小原の郷、街並み(古民家)を有しています。また、中山間地域の振興モデル地域で、いろいろな魅力やイベント(8月15日開催の小原八幡神社祭典、11月3日開催の甲州街道小原宿本陣祭、12月中頃開催の小原宿灯りまつり、等々)を発信しています。

マッチング事業など

市民や学校、商店街や企業などから授業の相談や講師派遣、アーティストの紹介など様々な依頼を受け、実現に向けた調整を行いました。令和6年度は多摩美術大学の PBL (Project Based Learning) 科目の実践に協力。また、同大学の大学院生に作品展示の場所を紹介しました。

相模原商店街マッププロジェクト 「あるいてみマップ・見つけてしマップ」

本プロジェクトは、多摩美術大学の実践型体験授業 PBL 科目(※)の受講生たちが企画したものです。学生たちは商店街の活性化のため、さがみ夢大通り商店会や相模原東商店会の方々とも何度も協議を重ね、2パターンのマップを作成しました。表面の「相模原商店街あるいてみマップ」は、ピンクのカバが目印の不動産会社や店長の趣味が光るカフェなどを明るい色調で紹介したものです。商店街につながるくの字型の通りを「くのわ通り」などと名付けてもいます。これは通りに名を付けることによって親しみを持ってもらうことを意図したものでした。また、裏面の「相模原裏商店街見つけてしマップ」はダークな色調の裏マップ。地面から生えるコンセントなど、学生らしい視点で発見した珍スポットなどを紹介しています。このマップは、商店会や街を訪れる方々に配布されましたが、プロジェクトの実施にあたり、アートラボは学生と商店会の間に入り、その連携のサポートを行いました。



※地域などとの連携を通じて社会から学びを得る学生主体のプロジェクト型授業

期間 | 令和6年4月~7月
主催 | 多摩美術大学
協力 | さがみ夢大通り商店会、
相模原東商店会
相模原市(アートラボはしもと、
中央区役所地域振興課)

月面アートプロジェクト作品展示

多摩美術大学情報デザイン学科の森脇裕之教授は、JAXA (国立研究開発法人宇宙航空開発機構) などとの連携により様々な“宇宙芸術”を試みています。令和5年度より始動した「月面アートプロジェクト」では、指導する3名の大学院生が JAXA 相模原キャンパスの協力を得、宇宙探査実験棟(月面を模した実験場)において作品制作を行いました。この取組の紹介や作品を実際に鑑賞する機会を設けるため、アートラボの紹介により、ユニコムプラザさがみはらのロビー、並びに宇宙探査機の実寸大模型のある相模原市立博物館のエントランスに展示させていただきました。

会場・会期 | ユニコムプラザさがみはら | 令和6年6月16日(日)~7月17日(水) [相模原市立博物館] 令和6年8月10日(土)~8月24日(土)
主催 | 多摩美術大学 森脇研究室
協力 | ユニコムプラザさがみはら、相模原市立博物館、相模原市(アートラボはしもと)



2024年度事業一覧

			地域連携事業	アーティスト連携事業	大学連携事業	その他
事業名	分類	プログラム名	実施日	参加数	会場	講師など
けやき☆ひろば	WS	アートでニュースポーツ こねくとミノッシュ ver.2.0 B- ミノッシュ、ベタベタミノッシュ	2024/5/11	67	けやき体育館	当館学芸員、当館美術専門員
アートラボはしもと せつせとジュンピチュウ！	工作	粘土でこねこね こだわりのフルーツ串	2024/8/19	55	アリオ橋本	当館学芸員、当館美術専門員
ふらっとアート（特別編）	工作	流木でおさかなをつくろう！	2024/9/15	25	けやき体育館	当館美術専門員
中山間地域文化芸術事業 「突然ドラゴン出現！ 小原宿本陣アートフェス」	WS	小原の石からつくった絵の具で 龍を描こう！	2025/1/19	28	小原集会場	ナチュラナノ研究グループ
	WS	ドラゴンチェアー	2025/1/19 2025/3/2	32	小原集会会場 市立青少年 学習センター	開発好明
	その他	ドラゴン演芸場	2025/3/16	100	小原宿本陣	本多ちかこ&ゆい、春風亭与いち、 おむすびひろば
	WS	バードコールづくり		46		一般社団法人さがみ湖 森・モノづくり 研究所 / MORIMO
	その他	ドラゴン LIVE ！		100		DRAGON CHOP、RHIME 手裏剣、 Canon、MARIUB、KEN、KOHGA、 SNUFFKINFACE
	SUPER OPEN STUDIO 2024	その他	スタジオ公開	2024/11/9・ 10・11・ 16・17	1543	-
ツアー		スタジオ・ビジットバスツアー（1）	2024/11/10	17	-	今井しほか、長嶺高文
ツアー		スタジオ・ビジットバスツアー（2）	2024/11/10	14	-	大槻英世、久村卓
ツアー		スタジオ・ビジットバスツアー（3）	2024/11/11	19	-	鈴木飛馬、畠中瑠夏
ツアー		スタジオ・ビジットバスツアー（4）	2024/11/11	18	-	いぐちなおみ、和田咲良
ツアー		スタジオ・ビジットバスツアー（5）	2024/11/16	18	-	丸山零、渡利達彦
ツアー		スタジオ・ビジットバスツアー（6）	2024/11/16	13	-	内海仁、牧野永美子
ツアー		スタジオ・ビジットバスツアー（7）	2024/11/17	16	-	今井しほか、ナカバヤシアリサ
ツアー		スタジオ・ビジットバスツアー（8）	2024/11/17	18	-	TODO、当館学芸員
その他		スタジオと「 」 」 vol.1 スタジオと「居る」	-	-	-	荒井伸佳、今井しほか、片山真紀、 ナカバヤシアリサ、廃屋グループ、丸山零
東京造形大学連携事業	工作	夏を涼しく！まわれ！風車	2024/7/23	63	旭児童クラブ	東京造形大学小林ゼミナール学生
多摩美術大学 PBL 科目 との連携事業	その他	相模原商店街マッププロジェクト 「あるいてみマップ・見つけてしマップ」	2024/4～7	9	相模原駅前 商店街周辺	さがみ夢大通り商店会、相模原東商店会、 多摩美術大学学生
多摩美術大学 森脇研究室との連携	その他	月面アートプロジェクト 作品展示	2024/6/16 ～7/17 8/10 ～8/24	-	-	ユニコムプラザさがみはら 市立博物館
Kunitachi Art Center 5周年トークイベント登壇	講師 派遣	ACKT5 周年「地域のアート」	2024/10/12	19	さくらホール （国立市）	当館学芸員
プログラム参加者数計				2220		

相談受付件数: 計 4 件うちマッチング成立件数: モノの成立 (物件、場所などの紹介) 2 件/ヒトの成立 (アーティスト、講師などの紹介) 1 件

令和 6 年度
所 長 脇岡実穂子
学 芸 員 加藤慶
美術専門員 柳川雅史/塚本かな恵/土屋美紀/入江彩美

令和 7 年度
所 長 脇岡実穂子
学 芸 員 加藤慶
美術専門員 柳川雅史/土屋美紀/入江彩美/高梨麻世

大学連携

アートラボは、相模原市やその近隣にある大学などと連携した事業を行っています。
令和 6 年度は東京造形大学の小林貴史教授のゼミナールを履修した学生と、児童
クラブでのワークショップを実施しました。



東京造形大学連携ワークショップ

相模原市内の旭児童クラブから依頼を受け、小学 1 ~ 3 年生を対象にした出張工作ワークショップを毎年実施しています。これは 1 時間程度でできる簡単なプログラムを楽しみながら、アートに親しむきっかけづくりを目指すものです。

今年度は東京造形大学の小林ゼミナールの学生と、工作のプログラムづくりから事業実施までを連携して行いました。旭児童クラブからの季節感のあるものを、というリクエストを手掛かりに、学生たちは試作を重ね、「夏を涼しく!まわれ!風車」という紙皿で風車をつくる時節に合わせたプログラムを企画。当館職員は学生が制作した試作品や当日のスケジュールなどにアドバイスをを行い、また、子どもたちへの指導も一緒に行いました。風車を風にあてて遊んだ後は、作品をみんなで鑑賞できるよう児童クラブに展示しました。子どもたちが楽しく工作に取り組む機会であると同時に、美術教育を学ぶ学生たちにとっても貴重な実践経験の場となりました。

「夏を涼しく!まわれ!風車」
日時 | 令和 6 年 7 月 23 日 (火)
10:00 ~ 11:00、13:30 ~ 14:30
会場 | 旭児童クラブ
主催 | アートラボはしもと (相模原市)
企画 | 東京造形大学 小林ゼミナール



地域連携

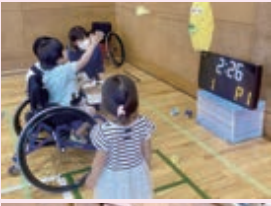
アートラボでは地域に根差した活動も続けています。令和 6 年度は、近年、連携事業を
続けている相模原市立けやき体育館において 2 回の出張ワークショップを行いました。

けやき体育館出張ワークショップ

障害のある方のスポーツや余暇活動の拠点である相模原市立けやき体育館と、今年も連携事業を行いました。令和 3 年度から始まったけやき体育館と当館の連携も今年で 4 年目。今年度は、けやき体育館主催の障害者理解啓発を目的とした「けやき☆ひろば」と、余暇活動支援のための「ふらっとアート」という 2 つのイベントで、出張ワークショップを行いました。

けやき☆ひろばでは、昨年度の連携事業で考案した「アートでニュースポーツ『こねくとミノッシュ ver.1.0』』というオリジナルの的でゲームに車椅子バスケットボールの要素を取り入れた「B- ミノッシュ」と、得点競争ではなくおしゃれなデザインを楽しむ「べたべたミノッシュ」の 2 つのプログラムを行いました。「B- ミノッシュ」のルールづくりでは、市内の車椅子バスケットボールチーム「相模FORCE」からアドバイスをいただき、実際の試合で使われる競技用の車椅子をお借りして実施しています。

また、ふらっとアートでは流木を活用した工作プログラム「流木でおさかなをつくろう!」を実施し、障害の有無に関わらず、子どもから大人までたくさんの参加者が工作を楽しみました。



アートでニュースポーツ
「こねくとミノッシュ ver.2.0」
「B- ミノッシュ」「べたべたミノッシュ」
日時 | 令和 6 年 5 月 11 日 (土)
11:00 ~ 12:00、13:00 ~ 15:00
会場 | 相模原市立けやき体育館 体育館
主催 | 相模原市立けやき体育館
協力 | 相模原市 (アートラボはしもと)

「流木でおさかなをつくろう!」
日時 | 令和 6 年 9 月 15 日 (日)
9:30 ~ 11:30
会場 | 相模原市立けやき体育館 2 階教室
主催 | 相模原市立けやき体育館
協力 | 相模原市 (アートラボはしもと)